

第14回

千葉緩和医療学会学術大会

非がんの緩和ケア

～病院から暮らしの場へ
広がる緩和ケア～

2026.2.14 (土) 13:00-17:00

東京情報大学4号館

主催 一般社団法人 千葉緩和医療学会
共催 東京情報大学・千葉在宅を考える会

大会長 梅野 福太郎 (四街道まごころクリニック)
副大会長 伊藤 美香 (東京情報大学看護学部看護学科)
岡田 智恵 (なごみの陽訪問看護ステーション)

オンデマンド配信あり!

※特別講演・一般演題(一部)のみ

- *会員 2,000円
(会場・オンデマンドいずれも)
- *非会員 来場者: 3,000円
オンデマンド配信: 2,000円
(いずれも学会入会金1,000円を含む)
- *学生 500円

医療職のみならず、介護職の参加也大歓迎です!

一般演題

13:10～

演題募集期間
10/18～12/19

演題応募用
QRコード



特別講演

14:40～

『非がん患者を
地域で支える』

一般社団法人MY wells 地域ケア工房

代表 神谷 浩平 先生

シンポジウム

15:35～

『非がん患者の緩和ケア』
～在宅と病院をつなぐ～



17:00～(会場のみ)
意見交換会
開催予定!

大会事務局

四街道まごころクリニック(担当:大西・若塚)

〒284-0043 千葉県四街道市めいわ3丁目16番8号1階

✉ chiba.kanwa14@magokoro-zaitaku.com ☎ 043-309-8261

学会ホームページ <https://sites.google.com/site/chibakanwairyo>

参加申込用
QRコード

参加申し込み
QRコードは、
別紙参照

特別講演

『非がん患者を地域で支える』



神谷 浩平 先生

＊略歴＊

山形県立中央病院 緩和ケアセンター副センター長を経て、現在は一般社団法人 MY wells 地域ケア工房 代表／緩和医療専門医・指導医。地域や在宅を含む多様な現場で緩和ケア支援に携わり、学会活動や教育にも従事。

近年、緩和医療を「がん以外の疾患」にも広げる必要性が高まっています。令和6年の国内死亡者の約4分の3は非がん性疾患や老衰によるもので、限られた医療資源の中で誰がその先の緩和ケアを支えるのかが大きな課題です。

生老病死という「苦」は人生において避けられず、誰しも自分の最終段階の病気を選ぶことはできません。その病気によって受けられる医療の質に差が生じず、人生の最終段階のケアは医療者も「自分ごととして」考えるときに来ています。

本講演では、地域の一般病院や療養型病院、在宅医療など多様な場で緩和ケアに携わる経験をもとに、疾患を問わず提供できる緩和ケアのあり方を考えます。さらに、一般的緩和ケアの基準づくりや専門職との協働、地域や在宅での支援体制も含め、参加者の皆さまと共に「看取り・看取られる社会」の実現に向けた方策を考えていきます。

シンポジウム



『非がん患者の緩和ケア』 ～在宅と病院をつなぐ～

<シンポジスト>

- ・ 千葉県循環器病センター
皮膚・排泄ケア特定認定看護師 副看護局長 鈴木 由加 様
 - ・ 聖隷佐倉市民病院
慢性心不全看護認定看護師 宍倉 亜希子 様
 - ・ 千葉ろうさい病院
神経内科 医師 小島 一步 先生
 - ・ ウイング介護相談室
主任介護支援専門員 村田 光昭 様
 - ・ なごみの陽 訪問看護ステーション
理学療法士 佐藤 美里 様
- ＊特別講演に引き続き、
神谷 浩平 先生にもご登壇いただきます！

<ファシリテーター>

- ・ 訪問看護ステーションあすか
所長/看護師 石橋 美知恵 様
- ・ 四街道まごころクリニック
医師 梅野 福太郎 先生

教育講演



オンデマンド限定で、
4名の在宅医より教育講演を配信

- ① 在宅でのACPの実践
ふたば訪問クリニック 山崎 恵一 先生
- ② 制度との縁をつなぐ
～地域包括センターとの協働による
生活支援の実際～
ちぐさ会クリニック 福田 員茂 先生
- ③ 終末期の輸液療法を考える
～エビデンスと寄り添いのあいだ～
ゆかりホームクリニック 小林 真史 先生
- ④ 有床診療所における
緩和医療の実際
梶田医院 梶田 匡史 先生

会場案内

東京情報大学 4号館 メディアホール

〒265-8501 千葉県千葉市若葉区御成台4-1 *駐車場完備

URL: <https://www.tuis.ac.jp/university/access/>



交通アクセス